
大会長講演

5月24日（土）9:40～10:10

第1会場 一橋講堂

不安症と心身医学

座長：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

演者：吉内 一浩 東京大学医学部附属病院心療内科

特別講演

5月24日（土）10:20～11:20

第1会場 一橋講堂

Eating disorder pathology: clinical features, psychiatric comorbidities and treatment

座長：吉内 一浩 東京大学医学部附属病院心療内科

演者：Anna Brytek-Matera

University of Wroclaw, Institute of Psychology, Poland/

Department of Psychosomatic Medicine, The University of

Tokyo Hospital/Department of Stress Sciences and

Psychosomatic Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

シンポジウム1

5月24日（土）10:10～11:40

第2会場 中会議室3・4

強迫症の予防と初期対応～教育アプリの可能性を含めて

オーガナイザー：松永 寿人 兵庫医科大学医学部精神科神経科学講座

企画趣旨・ねらい

強迫症（OCD）は、一般人口中の生涯有病率が1-2%程度、男女比はほぼ同等とされている。数年前のCOVID-19パンデミック下では、自らや他者を感染させる心配が高まり、加えて一定時間以上の念入りの手洗いの実施、他者との接触の回避、共有物の除菌などが繰り返し推奨され、このような状況においてOCDの発症リスクが高まっていることが想定されている。その一方で現状は、発症からの未治療期間は約8年で、重症化するまで受診に至っていない、あるいは中断してしまうことが多い。このため社会的啓発や予防と共に、初診時に適切な対応を行うことが極めて重要となる。

本シンポジウムでは、このような点にフォーカスし、OCDの予防や一般用教育アプリの可能性をまずは論じる（向井）。さらに症状把握と治療関係の構築を中心とした初回面接のポイント（阿部）、薬物治療の導入と継続、目標（村山）、そして認知行動療法をいかに有効に行うか（久能）、などに関し議論を深め、本邦におけるOCD臨床のクオリティを高めることを目標としたい。

座長：松永 寿人 兵庫医科大学医学部精神科神経科学講座
中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

SY1-1 強迫症の再発予防と啓発・心理教育アプリの可能性

演者：向井馨一郎 兵庫医科大学精神科神経科学講座

SY1-2 強迫症患者に対する初回面接のポイント～症状把握と治療関係の構築～

演者：阿部 能成 杉本医院からすまメンタルクリニック / 京都府立医科大学大学院 医学研究科精神機能病態学

SY1-3 強迫症患者への薬物治療の導入と継続、そして目標～いかに効果を最大化するか～

演者：村山桂太郎 九州大学病院精神科神経科

SY1-4 児童思春期強迫症患者への初期対応～認知行動療法への導入を中心に～

（シンポジウム「強迫症の予防と初期対応～教育アプリの可能性を含めて」）

演者：久能 勝 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター / 平安堂こころのクリニック

シンポジウム2

5月24日（土）14:00～15:30

第3会場 中会議室1・2

児童思春期の不安症に対する認知行動療法

オーガナイザー：石川 信一 同志社大学心理学部

企画趣旨・ねらい

世界的に、児童思春期の不安症に対する心理社会的支援方法として、認知行動療法の効果が長きにわたって証明されている。そして、その適応範囲は、個別支援、集団支援、親を通じた介入、予防的取り組み、デジタル支援とさまざまな発展を遂げている。しかしながら、我が国において、児童思春期の不安症に対する啓発や、適切な支援の普及には未だ大きな課題があるといわざるを得ない。そこで、本シンポジウムでは、我が国で行われている児童思春期の不安症に対する認知行動療法の研究と臨床における最前線を紹介する。本シンポジウムを通して、特に児童思春期の支援に関心を持つ会員に対して、日本における不安症の認知行動療法と臨床と研究のあり方を伝えることを目的としている。そして当日の議論を通じて、我が国における認知行動療法の普及と啓発に向けた課題について話し合う機会としたい。

座長：石川 信一 同志社大学心理学部

SY2-1 児童思春期の不安症に対する認知行動療法の実践研究

演者：石川 信一 同志社大学心理学部

SY2-2 学校で行う不安の予防教育プログラム「勇者の旅」の展開

演者：浦尾 悠子 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

SY2-3 児童期の不安症に対する保護者による認知行動療法

- 日本での実施可能性と今後の展望 -

演者：大川 翔 東京大学大学院総合文化研究科

SY2-4 子どもに応じて認知行動療法をクリエイティブに活用する

～スクールカウンセラーとしての実践～

演者：松丸 未来 東京認知行動療法センター

シンポジウム3

5月24日（土）16:20～17:50

第2会場 中会議室3・4

摂る不安・摂らない不安-摂食症から観る-

オーガナイザー：富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

企画趣旨・ねらい

食行動及び摂食症群（以下、摂食症群）において、例えば、神経性やせ症では、食べることや体重が増えることへの不安があるが、裏には食べ続けられないことへの不安もあり、このままどうなるのだろうか？という将来への身体、さらに社会生活の不安もある。このように、摂食症群の患者には食行動を巡る葛藤がある。心理的背景には、親子関係や自立の葛藤が存在することもあるが、表現型は食行動を巡る病状である。むちゃ食い症でも、摂食を巡る不安があるだろう。臨床現場では、摂食に関することが話題になりがちだが、不安を考慮した診療は、治療に活かせるだろう。

これまで、摂食症群にある不安をテーマにした議論はみかけない。そこで、今回、摂る不安と摂らない不安、という一見、相反する双方の「不安」から摂食症群を観る。精神科医、心療内科医、心理職から本領域のエキスパートの先生方を演者としてお願いすることができた。臨床現場での工夫、集団療法や認知行動療法などの実践も共有し、摂食症群を不安から掘り下げて議論していく。参加者には、明日からの各現場での治療ポイントのヒントになる貴重なシンポジウムである。

座長：高倉 修 九州大学附属病院心療内科
富永 敏行 京都府立医科大学精神科・心療内科

SY3-1 摂食症の不安への対応：認知機能障害 / 社交不安症という視点から

演者：山田 恒 兵庫医科大学精神科神経科学講座

SY3-2 不安・抑うつ病としての摂食症

— Bio-Psycho-Social な視点からの理解と介入の必要性

演者：高倉 修 九州大学病院 心療内科

SY3-3 摂食症患者の不安の気づきとアプローチ

演者：飯田 直子 京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学

SY3-4 摂食症における不安の理解と支援 -MANTRA の視点から -

演者：沼田 法子 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

シンポジウム4

5月25日（日）10:20～11:50

第1会場 一橋講堂

身体疾患（心身症）と不安

企画趣旨・ねらい

心身症は、日本心身医学会によって「身体疾患の中で、その発症や経過に心理社会的因子が密接に関与し、器質的障害ないし機能的障害の認められる病態」と定義されており、「身体疾患（心身症）」（例えば、過敏性腸症候群（心身症））と表記する。心理社会的因子の中には、不安や抑うつなども含まれており、本シンポジウムにおいては、コモンディジーズの心身症と不安との関連を検証することにより、心身両面からのアプローチの重要性を議論したい。

座長：菊地 裕絵 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター心療内科

SY4-1 片頭痛（心身症）と不安・抑うつ

演者：端詰 勝敬 東邦大学医学部心身医学講座

SY4-2 慢性閉塞性肺疾患における不安

演者：丸岡秀一郎 日本大学医学部内科学系呼吸器内科学分野 / 日本大学医学部附属板橋病院 心療内科

SY4-3 心不全

演者：庵地 雄太 国立循環器病研究センター 心不全・移植部門

SY4-4 過敏性腸症候群の基礎と臨床

演者：金澤 素 東北大学大学院医学系研究科心療内科学分野 / 東北大学病院心療内科

シンポジウム5

5月25日（日）10:20～11:50

第2会場 中会議室3・4

がん患者の不安・抑うつ up date

オーガナイザー：小川 朝生 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科

企画趣旨・ねらい

がんの臨床経過をたどるなかで、患者は検診の段階から、検査や診断への不安、告知に伴う衝撃、手術や薬物療法など初めての治療に伴う不安を経験する。この不安・抑うつは治療後も続き、再発・転移の恐怖、残存する有害事象、晩期合併症と直面する生活の負担、経済的問題、社会生活への適応など様々な課題に伴って続く。わが国では、がん対策推進基本計画に基づき、全国のがん診療連携拠点病院において、支援体制の構築が進められてきている。ここでは、精神心理的ケアの支援技法や支援体制の整備等、変化の著しい領域を紹介いただくとともに、全国のがん診療連携拠点病院の現状を俯瞰し、今後の方向性を議論したい。

座長：小川 朝生 国立がん研究センター東病院精神腫瘍科

SY5-1 「がん患者における気持ちのつらさガイドライン」からみた抑うつ・不安への対処

演者：吉川 栄省 日本医科大学医療心理学教室 / 日本サイコオンコロジー学会／
日本がんサポーターシップケア学会 気持ちのつらさガイドライン
委員会

SY5-2 がん患者への行動活性化療法

演者：鈴木 伸一 早稲田大学人間科学学術院

SY5-3 がん診療連携拠点病院での取り組みと課題

演者：秋月 伸哉 がん・感染症センター都立駒込病院

シンポジウム6

5月25日（日）13:20～14:50

第2会場 中会議室3・4

不安症とマインドフルネス—様々な実践と研究の広がり

オーガナイザー：熊野 宏昭 早稲田大学人間科学学術院

企画趣旨・ねらい

本シンポジウムでは、不安症とマインドフルネスを巡る様々な話題の中でも、マインドフルネス瞑想による介入を集団療法として行う場合、マインドフルネス系認知行動療法をオンラインの個人療法で行う場合、マインドフルネス介入をスマートフォンアプリで提供する場合と、様々なデリバリーの方法が発展してきている中で、それぞれの有効性と課題について論じたい。また、マインドフルネス介入の十分な発展のためには基礎研究が欠かせないが、脳科学研究においてマインドフルネスの効果をどう測定するかという観点からの発表を含め、基礎研究と臨床実践との橋渡しについても議論を深めたい。

座長：熊野 宏昭 早稲田大学人間科学学術院

SY6-1 スマートフォンアプリを用いたマインドフルネス介入研究の有効性と課題

演者：川島 一朔 株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）脳情報通信総合研究所 / 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域

SY6-2 オンライン時代における不安症に対するマインドフルネス系認知行動療法の実践と課題

演者：齋藤 順一 早稲田大学総合研究機構 / 綾瀬駅前診療所

SY6-3 Mindful Awareness Task を用いたマインドフルネスの行動測定：WASEDA' S Health Study

演者：臼井 香 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 / 早稲田大学 総合研究機構 応用脳科学研究所

SY6-4 不安症状に対するマインドフルネス集団療法の作用機序

演者：内田 太郎 厚生労働省指定法人・一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター

シンポジウム7

5月25日（日）14:20～15:50

第1会場 一橋講堂

パニック症診療ガイドライン、強迫症診療ガイドラインの作成状況

オーガナイザー：稲田 健 北里大学医学部精神科学

企画趣旨・ねらい

日本不安症学会と日本神経精神薬理学会は、2018年3月に不安症・強迫症診療ガイドライン合同作成委員会を組織し、社交不安症、パニック症、強迫症の診療ガイドライン作成を開始した。今般、パニック症と強迫症の診療ガイドラインを公表するに至ったためシンポジウムにて発表する。

パニック症、強迫症ともに、薬物療法と精神療法に関する3つの clinical question :CQ を定め、それぞれのシステマティック・レビュー（SR）をもとに益（治療反応性、症状改善）と害（治療からの脱落）のバランスを考慮して、完成された。成人（18歳以上）のパニック症と強迫症に対する標準的ケア（診療）の簡潔なガイドラインであることから、医師を含む医療者と患者、そして患者家族が科学的な根拠（エビデンス）を共有して診療方針を決定する「Shared Decision Making; SDM（共同意思決定）」に役立ててもらうことを目的としている。シンポジウムではCQの背景、SRの結果と解釈、推奨と解説を発表する。

座長：稲田 健 北里大学医学部精神科学
朝倉 聡 北海道大学

SY7-1 パニック症の診療ガイドライン～背景とCQ設定の経緯～

演者：塩入 俊樹 岐阜大学大学院医学系研究科精神医学分野

SY7-2 パニック症の診療ガイドライン～SRの結果と推奨～

演者：高塩 理 東京医科大学八王子医療センター・リエゾンセンター

SY7-3 強迫症の診療ガイドライン～背景とCQ設定の経緯～

演者：松永 寿人 兵庫医科大学医学部精神科神経科学講座

SY7-4 強迫症の診療ガイドライン～システマティックレビューの結果と推奨

演者：村山桂太郎 九州大学病院精神科神経科

シンポジウム8

5月25日（日）15:00～16:30

第2会場 中会議室3・4

全般不安症のガイドライン（薬物療法、認知行動療法）

オーガナイザー：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

企画趣旨・ねらい

2018年3月、日本不安症学会は、日本神経精神薬理学会と合同で、不安症・強迫症診療ガイドライン合同作成委員会を組織し、薬物療法と精神療法（認知行動療法）に関する Clinical Questions に対し、システマティックレビューをもとに益（治療反応性、症状改善）と害（治療からの脱落）のバランスを考慮して検討を行い、社交不安症の診療ガイドラインを2021年9月1日に発行し、パニック症の診療ガイドライン、強迫症の診療ガイドラインを、2015年時に公表予定である。今後、全般不安症の診療ガイドラインを薬物療法と精神療法（認知行動療法）の観点から作成を進めるにあたって、本シンポジウムで、参考となるような概略の方針を検討したい。

座長：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

SY8-1 全般不安症（GAD）診断基準の変遷と総論

演者：大坪 天平 東京女子医科大学附属足立医療センター心療・精神科

SY8-2 全般不安症の心理教育と抗不安薬の出口戦略

演者：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

SY8-3 全般不安症の認知行動療法

演者：吉田 斎子 千葉大学医学部附属病院認知行動療法センター

SY8-4 全般不安症（GAD）の薬物療法の現状と課題

演者：高塩 理 東京医科大学八王子医療センター・リエゾンセンター

ワークショップ1

5月24日（土）15:50～17:20

第3会場 中会議室1・2

不安症のある生徒を支援するための学校と医療機関の連携

オーガナイザー：大島 紀人 東京大学相談支援研究開発センター

企画趣旨・ねらい

本ワークショップでは、不安症のある生徒の学校生活の中での困難を考え、困難の解消に役立つ学校での配慮・支援について、模擬事例を用いてグループワークを行いながら考えます。メンタルヘルスの問題は児童・生徒の現代的健康課題とされており、特に不安症は同世代に多い精神疾患と考えられます。しかし、国内で蓄積されている学校での配慮に関する good practice のデータベースでは、不安症事例はほとんどありません。本ワークショップでは、様々な立場の学校教諭（中学校養護教諭、高等学校養護教諭、管理職（教頭、校長））を講師として招き、医療の視点から見た学校生活に役立つ配慮と、学校から見た有用な、実現可能な配慮について、意見をかわしながら議論を深めます。グループワークに先立ち、中学校や高校の仕組みや障害者差別解消法ほか合理的配慮関連の知識など、ワークの基礎となるミニ講義を準備しておりますので、事前準備は不要です。どなたでもご参加ください。

座長：大島 紀人 東京大学相談支援研究開発センター

WS1-1 高校の保健室から見た生徒の心の健康

演者：片寄 ゆうや 埼玉県立いずみ高等学校

WS1-2 学校における合理的配慮の考え方

演者：川瀬 英理 東京大学相談支援研究開発センター

WS1-3 中学校の保健室から見た生徒の心の健康

演者：澤村 文香 所沢市立美原中学校

WS1-4 不安症のある生徒に対する学校での配慮・支援について考える

演者：芦川 恵美 飯能市立奥武蔵中学校
龍野 雅美 埼玉県教育局県立学校部保健体育課
道上恵美子 埼玉県立草加東高等学校
力丸真智子 埼玉県志木市立志木中学校

ワークショップ2

5月25日（日）10:20～11:50

第3会場 中会議室1・2

身体症状症のガイドライン（薬物療法と認知行動療法）

オーガナイザー：富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

企画趣旨・ねらい

器質因が明確に特定されない身体症状の代表的疾患が身体症状症（Somatic symptom disorders：SSD）である。SSDは、身体症状の存在（A項目）、身体症状に対する心理認知症状（B項目）、持続期間（C項目）の診断基準からなる。総合診療部や内科だけでなく、精神科でも多くみられる。不定愁訴も含むが、治療が単純でなく、不得手な医療者も多い。

本ワークショップでは、SSDに対する治療の標準化を考える。演者には薬物療法および認知行動療法のプロフェッショナルを招いた。冒頭で富永敏行よりSSDの概念を概説し、架空の典型的な症例を提示する。それを基に、細越寛樹氏から慢性疼痛の診療フローの解説とSSDへの認知行動療法の可能性について、次いで、田口佳代子氏からはSSDの心理療法の方向性について深く、読み解いていく。最後に高塩 理氏がSSDの薬物療法の可能性と特有の課題を講演し、皆で総括する。

参加者に職場で、SSDの患者が目の前に現われたとき、慌てず対処できるよう、現場に持って帰ることができるワークショップとしたい。

座長：高塩 理 東京医科大学八王子医療センター・リエゾンセンター
富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

WS2-1 身体症状症の診断と治療とは？ - 症例を通して考える -

演者：富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

WS2-2 慢性疼痛に対する認知行動療法の基本的な考え方と具体的なプログラム例

演者：細越 寛樹 関西大学社会学部社会学科心理学専攻

WS2-3 難治性の身体症状症に対する認知行動療法の臨床とアプローチの例

演者：田口佳代子 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

WS2-4 身体症状症のガイドライン（薬物療法によるアプローチ）

演者：高塩 理 東京医科大学八王子医療センター・リエゾンセンター

共催シンポジウム（日本認知・行動療法学会共催）

5月25日（日）13:20～14:50

第3会場 中会議室1・2

不安症に対する認知行動療法の実践と今後の展望

オーガナイザー：岡島 義 東京家政大学

企画趣旨・ねらい

概要：日本認知・行動療法学会は、2024年に50周年を迎えた。1974年の日本行動療法研究会から始まり、1976年には日本行動療法学会に、そして2014年には現在の日本認知・行動療法学会へと発展してきた。このような変遷の中で、認知行動療法は、理論・技法の洗練、エビデンスの蓄積、臨床実践、他分野への応用、社会貢献など、国内外問わず極めて重要な役割を担うようになり、今なお、その発展は続いている。本シンポジウムでは、不安症に対する認知行動療法の専門家にご登壇いただき、それぞれの分野の最新動向と実践、すなわち「エビデンス・ベースト・プラクティス」について、紹介してもらう。また、日本不安症学会および日本認知・行動療法学会理事長にご登壇いただき、不安症に対するCBTの今後の方向性についての展望をいただく。

座長：岡島 義 東京家政大学

清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

SS1-1 社交不安症の認知・行動療法の最前線と実践

演者：吉永 尚紀 宮崎大学医学部看護学科

SS1-2 パニック症や広場恐怖症の認知・行動療法の発展と今後の展望

演者：福井 至 東京家政大学 / 医療法人和楽会認知行動療法センター

SS1-3 児童・青年期の不安症に対する CBT の最前線と実践

演者：浦尾 悠子 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

SS1-4 不安症の認知行動療法の今後の方向性（適応反応症、全般不安症を例に）

演者：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

教育講演1

5月24日（土）14:00～15:00

第2会場 中会議室3・4

災害時のメンタルヘルス対策・支援の初期対応に関して

座長：佐々木 司 東京大学大学院教育学研究科 身体教育学

EL1-1 災害時の不安等へのメンタルヘルス対策・支援対応

演者：高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学 / 茨城県立こころの医療センター / 筑波メディカルセンター病院 精神科

教育講演2

5月24日（土）15:10～16:10

第2会場 中会議室3・4

高齢者の身体症状症

座長：浅見 剛 横浜市立大学大学院医学研究科精神医学

EL2-1 高齢者の身体症状症の特徴と治療

演者：塩路理恵子 東京都立大学健康福祉学部 / 東京慈恵会医科大学森田療法センター

教育講演3

5月25日（日）9:10～10:10

第1会場 一橋講堂

うつ・不安の神経回路に迫る

座長：西川 将巳 川村学園女子大学

EL3-1 うつ・不安の神経回路に迫る

演者：筒井健一郎 東北大学 大学院生命科学研究科 脳神経システム分野

教育講演4

5月25日（日）13:15～14:15

第1会場 一橋講堂

SNS を使った不安症の疾患教育と今後の可能性

オーガナイザー：松永 寿人 兵庫医科大学医学部精神科神経科学講座

座長：松永 寿人 兵庫医科大学医学部精神科神経科学講座

EL4-1 SNS で不安症を扱うということ 疾患教育から啓蒙まで

演者：松崎 朝樹 筑波大学医学医療系精神医学

第5回日本不安症学会学術賞 受賞式・受賞講演

5月24日（土）13:00～14:00

第1会場 一橋講堂

座長：高塩 理 東京医科大学八王子医療センター・リエゾンセンター

うつ病と社交不安症に関わる脳機能異常の解明

～安静時 fMRI により病態の共通点と相違点が明らかに～

演者：和 俊冰 千葉大学子どもこころの発達教育研究センター / 大阪大学連合小児発達学研究科

モーニングセミナー

5月25日（日）9:10～10:10

第2会場 中会議室3・4

座長：端詰 勝敬 東邦大学医学部心身医学講座

MS1-1 片頭痛が与える日常生活の支障について ― 看護師の立場から ―

演者：小尻 智子 順天堂大学医学部附属順天堂医院 看護部

MS1-2 頭痛における痛覚変調性疼痛の理解

演者：住谷 昌彦 東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部 / 東京大学大学院医学系研究科疼痛・緩和病態医科学講座

共催：第一三共株式会社

ランチョンセミナー1

5月24日（土）12:00～13:00

第2会場 中会議室3・4

座長：大坪 天平 東京女子医科大学附属足立医療センター 心療・精神科

LS1-1 憂慮する不安症

演者：高塩 理 東京医科大学八王子医療センター リエゾンセンター

共催：ヴィアトリス製薬合同会社 メディカル・アフェアーズ統括部

ランチョンセミナー2

5月24日（土）12:00～13:00

第3会場 中会議室1・2

座長：榎屋 二郎 東京医科大学精神医学分野

LS2-1 不安症と不眠症

演者：小曾根 基裕 久留米大学医学部神経精神医学講座

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社

ランチョンセミナー3

5月24日（土）12:00～13:00

第4会場 特別会議室

座長：野原 伸展 東京大学医学部附属病院 心療内科

LS3-1 不眠症治療の新展開～入口から始める出口戦略の普及と実装に向けて～

演者：高江洲 義和 琉球大学精神病態医学講座

共催：エーザイ株式会社

ランチョンセミナー4

5月25日（日）12:10～13:10

第2会場 中会議室3・4

座長：松永 寿人 兵庫医科大学 医学部 精神科神経科学講座

LS4-1 うつ病治療の最適化とは？－不安症状と意欲低下の改善に注目して－

演者：大坪 天平 東京女子医科大学附属足立医療センター心療・精神科

共催：武田薬品工業株式会社 / ルンドベック・ジャパン株式会社

ランチョンセミナー5

5月25日（日）12:10～13:10

第3会場 中会議室1・2

座長：稲田 泰之 稲田クリニック

LS5-1 うつ病診療で見逃されがちな不安症状の捉え方

演者：山田 恒 兵庫医科大学精神科神経科学講座

共催：ヴァイアトリス製薬合同会社

ランチョンセミナー6

5月25日（日）12:10～13:10

第4会場 特別会議室

座長：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

LS6-1 不眠症の治療戦略について

演者：稲田 健 北里大学医学部精神科学

共催：塩野義製薬株式会社

共催シンポジウム1

5月24日（土）14:10～15:40

第1会場 一橋講堂

精神科領域における DT x（デジタルセラピューティクス）の未来

座長：松永 寿人 兵庫医科大学医学部精神科神経科学講座
中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
指定討論：久我 弘典 国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター

CS1-1 強迫症の認知行動療法アプリ開発における課題と展望

～産官学連携での教訓と薬事・保険戦略の課題～

演者：向井馨一郎 兵庫医科大学精神科神経科学講座

CS1-2 成人期 ADHD に対する認知行動療法を基盤としたアプリケーションの開発

演者：梅本 育恵 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

CS1-3 デジタルセラピューティクス（治療用プログラム）に関する産業界の取り組み

演者：南雲俊一郎 株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門
ヘルスケア・事業創造グループ担当

共催：emol 株式会社

共催シンポジウム2

5月24日（土）15:50～17:20

第1会場 一橋講堂

DSM-5-TR 特定用語“不安性の苦痛を伴う”うつ病における・症状・機能・QOL の評価と Patient-Centered Care

座長：大坪 天平 東京女子医科大学附属足立医療センター 心療・精神科

CS2-1 うつ病の診断 / 治療における特定用語“不安性の苦痛”の重要性

演者：馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 メンタルクリニック

CS2-2 “不安性の苦痛を伴う”うつ病と抑うつ性混合状態の関係をどう扱うか？

演者：武島 稔 医療法人 明心会 柴田病院

CS2-3 “不安性の苦痛を伴う”うつ病の評価と治療

演者：高江洲 義和 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

共催：大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部

優秀演題賞候補

5月24日（土）10:20～11:20

第3会場 中会議室1・2

座長・審査員：熊野 宏昭 早稲田大学人間科学学術院
吉永 尚紀 宮崎大学 医学部看護学科

**0-1 学校で教員が行う“自殺リスク評価”が中高生の希死念慮に与える影響
—無作為化比較試験による検証—**

湯川充佑子 東京大学教育学研究科 / 日本学術振興会 特別研究員（DC）

0-2 視線解析を用いた強迫症の視覚運動協調性の特性評価の予備的研究

細井 幸彦 兵庫医科大学

0-3 強迫症の認知行動療法における、治療前の安静時脳機能結合及び白質線維の微細構造が治療効果に与える影響

池水 結輝 千葉大学子どもこころの発達教育研究センター / 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

一般演題1 子ども

5月25日（日）10:30～11:50

ポスター会場

- P2-1-1 子供の心理社会的発達に母親の強迫症症状、特に巻き込み行為が及ぼす影響に関する多角的検討
萩野 俊
兵庫医科大学精神科神経科学講座
- P2-1-2 子どもの不安症状と親への影響：横断的心理ネットワーク分析より
西内 基紘
武蔵野大学大学院人間社会研究科
- P2-1-3 敏感な性格（HSP）、神経症傾向、メンタルヘルス、神経発達特性と逆境的小児期体験（ACEs）の関連性
松澤 朱里
千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学
- P2-1-4 性犯罪被害経験とうつ傾向及び小児期の逆境体験の関連について
佐々木 利奈
千葉大学子どものこころの発達教育研究センター
- P2-1-5 複数の不安症が併発する女兒に対して「保護者による認知行動療法」を施行した介入事例
大川 翔
東京大学
- P2-1-6 神経発達症児への親子相互交流療法と言語的価値低減法で強迫症状が顕著な改善をしめた事例
加藤 澄江
カウンセリングオフィス・ペアベール、ゆいメンタルクリニック

一般演題2 学校保健

5月25日（日）10:30～11:50

ポスター会場

- P2-2-1 思春期・青年期における社会的比較と不安・抑うつに関するシステマティックレビュー
木下 正子
東京大学大学院教育学研究科身体教育学コース
- P2-2-2 中国の大学生の自動思考，問題解決能力，社会的スキルおよび特性不安が就職活動不安と状態不安に与える影響－横断的および縦断的検討
董 潔
日中文化芸術専門学校
- P2-2-3 新型コロナウイルス感染拡大と注意欠如多動症児の不注意症状についての考察
佐々木 剛
千葉大学医学部附属病院 こどものこころ診療部
- P2-2-4 中学生のWEBでのストレスチェックに関する探索的研究
草野 優子
大阪大学大学院連合小児発達学研究科（千葉校）、
千葉大学子どものこころの発達教育研究センター
- P2-2-5 中高生における心理的苦痛パターンと希死念慮との関連性
周 瑞
東京大学教育学研究科

一般演題3 心理尺度・産業医学

5月24日（土）14:30～16:00

ポスター会場

P1-3-1 SSD-12 を用いた保育士の身体症状症に関する調査

松本 佳大

京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

P1-3-2 適切な両立支援により退職を防ぐことができた一例

野原 久司

横浜労災病院 心療内科、港北もえぎ心療内科

P1-3-3 ストレスチェック結果から見た不安症状を有する労働者の特性およびストレス要因

吉田 美昌

富士フイルムマニュファクチャリング株式会社鈴鹿事業所健康推進室

5月25日（日）10:30～11:50

ポスター会場

P2-3-1 Nepean Belief Scale を用いた強迫観念に関する予備的調査

石垣 琢磨

東京大学大学院総合文化研究科

P2-3-2 不安感受性を測定する Anxiety Sensitivity Index-3 日本語版の改訂に向けた予備的研究—因子的妥当性と項目構成の再確認—

中谷 智美

名古屋産業大学

P2-3-3 日本語版 Multidimensional Test Anxiety Scale の信頼性と妥当性の検討

川崎 紗和子

同志社大学大学院心理学研究科

一般演題4 心理療法

5月25日（日） 10:30～11:50

ポスター会場

- P2-4-1 身体症状症における身体症状への不安に対する治療的アプローチ：
森田療法の視点から
眞島 裕樹
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
- P2-4-2 生活において支障の程度が異なる飛行機不安の2事例からみるVRエクスポージャーを用いた効果的な介入の検討
江頭 伸哉
医療法人悠仁会 稲田クリニック、医療法人悠仁会 北浜クリニック
- P2-4-3 場面緘黙児に対する応答行動形成のための段階的エクスポージャーと刺激フェイディングの効果の検討
井森 萌子
ウェルネス高井クリニック / REON カウンセリング
- P2-4-4 臨床的な不安に対するエクスポージャー療法の研究動向：
テキストマイニングによる検討
山口 慶子
東京女子大学現代教養学部 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
- P2-4-5 広場恐怖に対しマニュアルを用いた外来森田療法の安全性評価のための予備研究：
治療終了後6か月までの追跡
横山 貴和子
慶應義塾大学医学部精神神経学教室
- P2-4-6 多様な身体違和を訴える統合失調症40代男性に対する外出訓練および曝露療法の効果
本田 暉
REON カウンセリング、ウェルネス高井クリニック

一般演題5 社交不安症

5月24日（土）14:30～16:00

ポスター会場

P1-5-1 安静時 fMRI を用いた社交不安症の機能的結合と実行機能の検討

Nadire Aximu

千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学、千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

P1-5-2 社交不安症における文脈からの推論機能の低下

磯部 祐子

千葉大学子どものこころの発達教育研究センター、
大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科

P1-5-3 仮想環境における社交不安症の維持要因に対するアバター聴衆の反応と他者評価懸念による影響

七森 真央

早稲田大学大学院人間科学研究科

P1-5-4 バーチャル・リアリティー環境におけるスピーチ中の視線行動と社交不安における自己注目・他者注目の関連性

富田 望

実践女子大学人間社会学部

P1-5-5 ビデオ通話における自己映像の有無が高社交不安者の自己注目と自己評価に与える影響

柳田 綾香

早稲田大学大学院人間科学研究科 日本学術振興会 特別研究員

一般演題6 強迫症

5月24日（土）14:30～16:00

ポスター会場

P1-6-1 強迫症の認知行動療法モバイルアプリケーションの補助教材としての品質評価

向井 馨一郎

兵庫医科大学精神科神経科学講座

P1-6-2 当院における強迫症入院治療プログラムの有効性の検討 第二報

横角 えりさ

兵庫医科大学精神科神経科学講座

P1-6-3 感覚現象の重症度と強迫症の罹患期間・重症度の関連

川人 慎

九州大学大学院医学研究院 精神病態医学 行動療法研究室

一般演題7 その他疾患

5月24日（土）14:30～16:00

ポスター会場

P1-7-1 ADHD を併存するためこみ症：重症度と臨床的特徴

西田 奈美

九州大学大学院医学研究院 精神病態医学 行動療法研究室

P1-7-2 心療内科外来患者における不安と中枢性感作の関連性

竹内 武昭

東邦大学医学部心身医学講座

P1-7-3 身体症状症と発達特性・性格特性・うつ不安の関係性

- 構造方程式モデリングによる解析 -

三好 未来

千葉大学大学院 医学研究院 認知行動生理学

P1-7-4 担癌患者家族の不安にチーム医療がうまく機能した一例

大澤 雄気

東京大学医学部附属病院心療内科

P1-7-5 神経性無食欲症に合併した不安症状が体重増加によって改善した1例

長尾 拓樹

独立行政法人 国立病院機構 舞鶴医療センター 精神科

一般演題8 その他

5月24日（土） 14:30～16:00

ポスター会場

- P1-8-1 精神疾患や中間表現型ポリジェニックスコアを用いた機械学習によるパニック症の判別
大井 一高
岐阜大学大学院医学系研究科 精神医学分野
- P1-8-2 精神科領域におけるインターネットを用いたオンライン診療の運用実態と将来性に関する研究
松井 徳造
兵庫医科大学リハビリテーション学部
- P1-8-3 大うつ病性障害のサブタイプに関連するゲノムワイド有意遺伝子座の組織特異的遺伝子発現
藤兼 大輔
岐阜大学大学院医学系研究科精神医学分野
- P1-8-4 不安抑うつ発作に対する DRD4 遮断薬の効果 - 病後歴研究
松田 尚実
医療法人和楽会 心療内科・神経科 赤坂クリニック
- P1-8-5 産後不安を妊娠中から予測する機械学習モデルの構築
陳 冲
山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座
- P1-8-6 災害派遣福祉チーム（DWAT）チーム員における外傷後ストレスに対する認識の検討
瀧井 美緒
岩手県立大学社会福祉学部